

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立西陵中学校)

1 平成26年度 重点評価項目

1, 確かな学力, 健やかな体, 心豊かさを兼備した生徒(主体性) 2, 基本的生活習慣を確立し社会適応能力を発揮する生徒(社会性) 3, 人間の尊厳と共生の精神を発揮する生徒(協調性)

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定						自己評価		学校関係者評価			
各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						評価日 平成26年9月19日		評価日 平成26年10月23日			
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価者・組織 学校評価委員会		評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員			
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校評議員による改善 に向けた支援策		
1	確かな学力	「未来を拓く」思考力・判断力・表現力の育成 基礎・基本的な知識・技能の習得 家庭学習の習慣化	言語活動を組み入れたグループ学習 グループ学習 家庭学習課題の取組	授業の中で言語活動が取り入れられていたか グループ学習が効果的だと感じましたか 家庭学習は十分ですか	⇒	57%が出来ているという回答だが、40%が判らないという結果であった 効果的との回答は53%だが47%はわからないという結果であった 十分ではないという回答42%との結果であった	グループ学習・言語活動について、以前は「わからない」という回答が多かったが、徐々にではあるが浸透してきたのではないかと感じる。 毎日家庭学習課題を設定し定着が、は4割の家庭で「不足」との回答であった。	生徒の中にもグループ学習は浸透しているが、毎時間行うグループ学習だけでなく、各教科で単元ごと知識を活用させるための授業を行うなど、活用を高度化させていくことも考える必要がある。 家庭学習も、量・質に加え読書の取組も検討の余地がある。	⇒	今の子どもたちは本を読むことが少なすぎると感じる。漫画にしても擬音ばかりで文字がない。また、スマートフォンの普及で知りたいことがすぐ解かることも、本離れの原因になっているのではないかと。いずれ辞書が必要なくなる時代が来るのかもしれないが、読書は必要であると感じる。	読書と同時に書くことも大切だと思う。昔は作文・感想文など文章を書かされた記憶がある。ぜひそういう取組も進めてほしい。地域で読み聞かせなど協力できることはしていきたい。
2	豊かな心	「指導の3原則」 学校行事を創ることを通して豊かな心を育成する 自分の考えを発信する力の育成	挨拶・時間・掃除の徹底 学校行事を生徒自身で作上げるための話し合い活動の積極的取り組み 授業他すべての教育活動に、発表の場を設定し活動する	生徒の挨拶はしっかりとできていますか 時間を守る態度は 生徒は様々な場面で、自ら解決しようとする態度が見られますか 生徒に十分な説明する力が身についていますか	⇒	挨拶で88%、時間79%ができていたとの結果であった。 見られるという回答が74%あり、徐々に力がついてきている。 出来ているという回答は58%という結果であった。	各教科でのグループ学習や行事に向けた取り組みにより話し合う場が増え、徐々にではあるが意見交換も活発に行えるようになってきたと感じるが、説明する力についてもさら向上させる必要がある。	全体的に見て語彙が少ないと感じる。読書の時間が極端に少なく、また作文や感想文など書くことで表現することが少なくなっていることも一つの要因であると考えられる。各教科で「まとめる」「表現する」「説明する」場を効果的に設定することが必要である。	⇒	地域の中でも以前に比べ元気良く挨拶してくれるようになったと感じる。読書と同時に書くことも大切だと思う。昔は作文・感想文など文章を書くことが多かったが、大切なことだと思う。	子ども同士のつながりも携帯電話などの心を感じないつながりになっていると感じる。携帯教室など啓発活動も大事にし地域でも取り組んでいきたい。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上	遅刻・早退・欠席連絡の徹底と、委員会による啓発活動の取組 運動部への積極的参加の呼びかけ、体育授業時の体づくり運動の充実	生徒は起床・食事・就寝など、時間を守る態度は身についてきましたか 体育系部活動の参加している。	⇒	20%が出来ていないという結果であった。 体育系で65%、吹奏楽を含めると79%の生徒が部活動に参加している。	生活習慣が身につけていないと捉えている保護者が2割おられた。発育の著しいこの時期に於いては、生徒自身の意識を変えていくことが重要であると考えられる。	行事や委員会からの啓発活動に加え、健康に関する知識や、運動の必要性を生徒自身が理解できる学習や活動を計画的に行う。	⇒	子育ても昔とは違い親子の関係も希薄になっていると感じる。地域の行事にも中学生が参加してくれているのありがたい。	地域で育てるということも大切であり、区民運動会など子どもが活躍できる場と一緒に作っていきたい。
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 情報発信の充実	小中で継続した学習規律の推進 小中合同授業研修会の実施 積極的なホームページの更新	他校種(小学校・高校)との連携の必要性を共通理解し、連携を深めている 中学校での様子は保護者の皆さんに伝わっていますか	⇒	82%が深められているという結果であった。 出来ていない・わからないという回答が24%という結果であった。	3小中学校がそれぞれの学校の公開授業を参観し、研究協議に参加することで、9年間の学びを意識した考え方を共有することが出来てきたように感じられる。	学習規律やグループ学習など、中学校入学時に戸惑いを感じないよう小中一貫での取組が少しずつ整えられて来たように思う。今後、さらなる発展のために保護者や地域の方に小中それぞれに、興味・関心を持ってもらえる取組と、協力していただける情報発信を充実させたい。	⇒	これだけ子どもの数が少なくなってくると、小中・小中の統廃合も視野に入ってくるのではないかと。いろんなことで不都合が出てくるのが予測される。	地域的にも高齢化が進んでいるためできることも減ってくると思うが、子どもたちが元気に育てるよう協力していきたい。